

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 胡桃
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県 佐世保市 黒髪町 4522
記入者名 (管理者)	大石 圭介
記入日	平成 19年 8月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「毎日明るく楽しく元気よく。地域の方と、ともに、喜びを提供します。」という理念の下に、地域の方の交流にも、力を入れ、行事に参加していただいている。	今後も、地域の一員としての役割を果たし、地域との支えあいを大切にしていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を、タイムカードの側に張り、目に付くようにしている。各職員が理念に近づけるように取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	話をするとき地域とのかかわりの重要性を交えて話すように心がけている。	家族や地域の方を含めて、よりいっそうのコミュニケーションを図り協力していく体制をつくる。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	回覧板をもっていたり、地域の行事ごとにも、できるだけ、参加するようにしている。	最初は挨拶だけであったが最近は立ち止まって話をさせていただくようになった。今後は、もっと気軽に立ち止まれるようにしていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	草刈等に参加し逆に夏祭り等に参加していただいています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方を交えた、消防訓練等も行い、消火器の使い方等を地域の方にも、指導する。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員へ事前に、自己評価の紙を手渡し出来る限りお願いし、収集し、それを、元に記載していくようにしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に1回のペースで会議を行う。他者の意見がいろいろと出て、有意義に行えている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者が、協議会の役員や、市のケアプラン会議委員のメンバーとして、市役所を尋ねることが多いので、その時に話をしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今現在利用していない。現金等も、ある程度、個人に渡し、その他は、胡桃の金庫に保存し、毎月家族に使用の明細を送っている。</p>		<p>今後は、必要になってくるとは、思うが、今のところは考えていない。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書のほかにご案内等の詳細を使用し説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付書を作成している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月胡桃新聞を発行し、家族様にも、送付している。又、年賀状や、暑中見舞い等は、入居者様の顔写真をのせて送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に、苦情の処理について載せている。</p>	<p>佐世保市グループホーム協議会ができて、そちらに、苦情処理が出来ているので、家族に話をしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を行い、話し合うことにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>以前より、職員数を増やし、余裕を持てるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はあるが、今のところ、大きな混乱はない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会のブロック別の研修や、社内勉強会を行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他のグループホームの管理者に来ていただいたり、グループホーム協議会の別のブロック会議に参加し、交流を図っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の、食事会や、スポーツ等をしている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が資格取得できるように、受験費を会社もちとし、合格すると、資格手当をつけている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談時や、その後も入居者様本人とよく話をし対処するようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様とも入居前から、よく話をし、面会時も、数分時間を頂き話をするようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることは聞く、相談にのる。他のグループホームにも、お願いすることもある。		相談を受けて、すぐに、対応できるのであれば、対応するが、実際は難しい。すぐに入居させたいといわれても、空き部屋がなかったりする。協議会の役員として、他の、グループホームの空き情報も、入ってくるが、中々空きがなく、対応できないのが正直である。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族にどの程度、入居を理解しているのかを、必ず聞く。入居時は、出来るだけ、本人さんのゆかりの品物を少しでも、持ってきていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や、掃除にしても、入居者様本人にさせていただいたり、一緒にしたりしている。計画と一緒に練る事もある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ、面会に来ていただくようお願いし、盆や、正月は出来る限り、家で見ていただくように声かけしている。		声かけはしているが、なかなか家で見ようという方はいない。今後も、声かけはお願いしていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事には、家族様の参加をお願いし、又、仕事帰りでも、面会に来れるように、時間指定をしていない。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たまに、自宅周辺に一緒にいたり、買い物も、本人様が、行っていた場所に行ったりしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	車イスの方もいるが、元気な入居者様が、お手伝いをしたりと、手伝ってくれる。出来ない方の分を他の入居者様が、手伝ったりと、いい関係が出来ている。		元々、違う環境で育った方々が、共同生活をしていくが、やはり合う合わないはあり、仲がよくない入居者様同士もいる。しかし、職員が間に入り対応している。今後は無理に仲良くとは言えないが、で切るだけ協力できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も行事には、ご家族様に、連絡したりしている。また、ご家族様が、遊びに来ることもある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・主治医・職員と、皆の意見を聞き、その方に合ったサービス内容にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	もちろん本人に合った暮らしを目指してやっているが、共同生活をしていく中でどうしても難しい場面が出てくる。		過去の生活歴は今後のサービス内容について最も重要なことと、感じているが、なかなか把握が難しい。特に家族となかなか連絡が取れない方の把握に、頭をかかえている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタル測定し、異常時は休んでいただく。また、毎週主治医に往診に来ていただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの段階で、希望を聞き、アセスメントに沿った介護計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目標に、行っているが、大きな状態の変化には、計画を取り直すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前回の外部評価後に変更した個人記録で1年間やってきている。		まだ、個人記録に関しては、これといったのが見つからず、模索している状態である。今年の9月から、また、新しい記録に変更するので、それでやって見たいと思っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来る限り希望に添うようにしている。しかし、透析の送迎等で、職員が取られ、車が取られて、必ずいけるとはいきれない。		オープンから3年経過したので、現在申請予定で、ショートステイを胡桃でも行えるようにして行こうと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れもしており、年に5～6名ほど来ていただいている。又、消防訓練等は、消防署員等にも、参加していただき、先日は、地域の方も合同で消防訓練を開催した。		今後も続けていくつもりです。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	美容の訪問等は他業者に行っている。また、入居前のケアマネさんに現在の様子等の状況を伝え、退居後のお願いも過去にしてきた。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在行っていない。		場合によっては考えるが、今のところは考えていない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人様と、家族様と一緒に話をする時に決めているが、「お任せします」という時は、胡桃のかかりつけ医にお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、かかりつけ医が、グループホームを開設しており、そのドクターにいろいろと相談している。また、精神科のドクターに時折相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看が常勤しており、24時間連絡が取れる体制をとっている。また、他の病院にも、連絡できる体制をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のソーシャルワーカーと連絡を取り、退院できるときは早めに退院させ、胡桃で出来ることなら、退院後に胡桃でリハビリ等行うようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在、ターミナルを迎えた方はいない。		出来れば、希望される方は、最期まで胡桃で見たいという気はあるが、現在の力量で出来るかといえば、っや不安。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	要介護度が重い方も入居し、職員の中にも、将来性の話が出てきている。		家族にもどのあたりで、ターミナルケアをするのか。どのようにするのかを尋ねていき、早めの準備をしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時に、胡桃への入居をどのあたりまで、納得して入居となるのか。を尋ねるようにしている。実際に他のグループホームに入った方々には、なじみの職員が何度か訪問し、話をしにいった。又、自宅にしても、施設にしても、次のケアマネさんに情報提供書をお渡しして、情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>認知症の方を、怒ってはいけないという鉄則のようなものがあるが、胡桃の考えとしては、どうしても場合は、人前でなく、1対1でという条件で、怒ることもある。記録には、「…の為、注意する。」という形で残している。又、居室は個室で、カーテン等もありプライバシーの保護に注意している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来る限りは本人様の希望に添うようにしているが、病気等でどうしても無理なとき等は職員の考えにあわせていただいたりすることもある。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>無理強いしたりせず、一日居室で過ごされる方や、居室で食事を取られる方もいる。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容は、思い思いのところにいかれ、どうしてもいかれない方は、訪問美容を利用している。現在美容室は、4箇所のところに行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは、入居者様の意見を取り入れながら、職員が決められているが、食事の準備や買い物は、みんなで行っている。片付けや、茶碗洗い等も調子のいい入居者の方々がしてくれている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>水分管理や、食事制限等で行えない方もいるが、個人で居室に飲み物を置いたりしている方はいる。タバコに関しては、喫煙場所を指定して楽しめるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人の状態に合ったパットやオムツを使用している。一人ひとりでパット等が違い値段も違うが、家族様に了承を得てその方に合ったのを提供している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日勤者が出勤後溜め、何時でも入れるようにしておく。自分で入られる方は、入っていただき介助がいる方は職員の誘導で入っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	主治医とも相談し、必要に応じて眠剤を使用したりしている。出来る限り、消灯したりし、個人によっては、明かりが漏れぬように工夫している方もいる。昼間の睡眠は出来る限りしないよう声かけする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人その人が出来るようなことごとを職員や、入居者同士で力を合わせてやっていくようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	胡桃の金庫にて所持金をお預かりしているが、あまり大金ではないお金は、入居者様にお渡ししている。自分で、外の自販機で買い物したり、買い物時に自分の好きなものを買われたりしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、月に1回以上皆でドライブや行事をしている。その日のバイタルや、気分によって外出できない方もいるが、外のベンチ先で、お話ししたり、日向ぼっこをしたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くに行きたいと希望があったため、1時間以上かけて、花見に行ったり、30分以上かけて、足湯に行ったりとしている。年末は、忘年会とし、家族様も一緒に食事に出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話は何時でも貸している。個人によっては、手紙を書き、「ポストに入れといて」と頼まれる方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の自宅に行き、近所の方を乗せ、胡桃でお話されたことがある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、壁につけ2本柵を使用していたが、今はしていない。もし、使うときはご家族様に事情を説明し、サインを頂いて使用していく。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外のベンチ先で、談笑される入居者様が多いし、病院の受診等で、送迎が多いので、鍵はかけることは夜間帯しかない。もし、いなくなっていると職員が探しに行き、近所の方にも協力をお願いし見つける。近くの交番にも、入居者様の特徴等を示した紙を渡している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	キッチンから、フロアーが見渡せるつくりになっている為、フロアーにいる方の対処はできる。2階に上がっている方は、時間おきに見に行き、声掛けをしている。夜間帯は少なくとも2時間おきに訪室し、様子を観察している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	フロアーに必ず職員がいるので、包丁やライター等はキッチンにあり、近づこうとすれば、職員が近くまで行くので、特別隠そうとかは思っていない。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒記録等を記入し、事故の再発に注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対処法のファイルを作り、皆が見れるようにしている。また、24時間体制で、緊急時には連絡が行くようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	先日、地域合同消防訓練を施行し、多くの参加を得た。消防署員にも、参加していただき、指導を得た。		近日中にスプリンクラーを設置する予定。自動通報装置も、お願い中。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	胡桃の場合、あまり団体でのレクリエーションを実施しておらず、個人での行動が多い為、リスクは多いが、職員が対応することは出来る。入居前にそういう話はしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	今までは、朝のバイタルに頼っていた。再検は行っていた。		今年の9月から、日頃と異なる点を記録する用紙を、作成したため、それで様子を見て行きたいと思っています。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターとも相談し、薬の調節をしながら行っている。また、服薬の飲み忘れ等に注意し、職員が確認をし、サインをするようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	の字マッサージをしたりし、出来る限り自然排便を誘導するが、病気の関係もあり、薬を服薬している方もいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で出来る方は、声掛けで。介助のいる方は、毎食後口腔ケアをしている。1名の方は、協力歯科医より機械を借りて毎食後行っている。		協力歯科医に、年に1回でもいいので、口腔チェックをしていただきたいと考えているが、今後もできるかわからずにいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事摂取量や、必要な方の水分チェック表を作成し、個人ケアに努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	必要な時期になったら、本人や、家族に相談し、予防接種等を受けている。また、職員も、予防接種を受けるように話をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は、野菜用と、肉魚用に分けて使用し、夜間に消毒するようにしている。また、食器は乾燥機にかけ乾くとすぐになおすようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にベンチを置き、玄関は雨風がひどいとき意外は、開けているので、家族の方に入りやすいといわれる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた催し物をし、居室に飾ったりするが、基本的にはあまり飾り物はしないようにしている。あまり施設っぽくせず、普通の民家であるようなアットホーム的な雰囲気を出したいと考えている。なので、食事を作る音やにおいはよくわかると思います。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外のベンチや、裏にある椅子。または、居室等に入居者同士、または、職員も含めて談笑をされたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのある品物や、ゆかりのある品物等を持ってきていただき、居室においている。また、孫の写真をはったり、昔の写真を飾ったりとされている方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者自身でエアコンの調整をされたり、換気や、衣類の調節等もされる。出来ない方は、職員が行う。窓は転落予防の為に、あまり開かないようにしているが、入居者様の希望があれば、窓を外したりして、調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターも設置してあるので、足腰が不自由な方でも、2階に行くことができる。また手すり等もあり、バリアフリーの造りになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している			
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	仲のよい入居者同士で、散歩に出かけたり、裏庭に花等を植え、管理している方もいる。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型になり、地域とのかかわりはすごくよくなった。地域の方によく、遊びに来ていただき入居者の方々も、地域の方とよく話をするようになった。夏祭り・餅つき・消防訓練と、準備の段階で手伝っていただいたり、消防訓練では、避難誘導や、介助等もしていただき、消防署員の方々にもほめられたくらいです。地域の方々に支えられている施設だと思います。また、胡桃の場合は、透析の方が、3名いらっしゃいまして、他のグループホームからも、見学に來られたり透析の方を、引き受けてくれた施設もあります。今後も、グループホームでも、透析患者を引き受けることが出来ることを、示していけるグループホームでありたいと思っております。